

# 大事に守られてきたものを次の世代へ

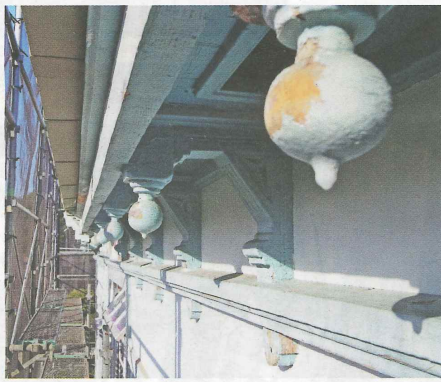


明治時代の洋風建築として貴重な建物。19世紀末にアメリカで流行したコロニアルスタイル写真提供・嵐山町教育委員会

## 幼稚園として活用 日本赤十字社埼玉支部旧社屋 明治時代の貴重な建物

文化財は、長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた財産で、歴史や文化の理解のために欠くことのできないものです。1905年に建てられ、埼玉県の指定有形文化財となっている日本赤十字社埼玉支部旧社屋（嵐山町）で保存工事がおこなわれており、現場を取材しました。

日本赤十字社埼玉支部は発足以来、埼玉県庁の一室を間借りしていましたが、県庁敷地内の北側の一角を借用し1905年に社屋が完成しました。  
設計者は山下啓次郎氏（ジャズピアノリストの山下洋輔氏の祖父）で、社屋は木造平屋で、19世紀末にアメリカで流行したコロニアルスタイルで、正面や左右の棟にある妻飾り、中庭に面する吹き抜けの廊下などにその影響を見ることができ、赤茶色の瓦屋根、薄水色の外壁、赤レンガ積みなどの基礎など特徴的なデザイン。明治時代の洋風建築として



凝った意匠の「垂れ飾り」と呼んでいる円球

して貴重な建物です。  
1982年に埼玉県国民健康センター建設のため、嵐山町に移築・復元され、小学校として使われた後、現在は嵐山幼稚園の一部として使われていて、1994年に県の指定文化財に認定されました（まだ付属の建物である六角便殿・迎賓用の化粧室は、小川町にある小川赤十字病院へ移築され、正六角形のユニークな佇まいをみるのができます）。  
今回、幼稚園の子どもたちの歓声が聞こえる中、現場を案内してくれたのは嵐山町教育委員会の川上さん。  
「正気側の浮いている塗装をはがして塗り直しています。腐りまわって積みがひどいところは、それを取り除けるまで取り除いて、新しい木材を埋めて補強して塗り直しています」と工事内容を説明してくれました。  
「以前は1999年、2000年に保存工事をおこないましたが、塗装は半永久的なものではないので、木造建築が10年に一回は塗り替えが必要になるのと同じで、今後10年くらいしたら工事が必要になると思います」と今後の修繕の必要性を話します。  
建物には、他の部屋と違って、装飾を凝らした貴賓室があり、天皇陛下をそで迎える

この保存工事を請け負っているのは、坂戸支部所属の小須田孝三さんです。「大変な思いをしていますが、あの一か所だけでも3日もかかっています」と笑います。  
普段は一般住宅の仕事が主で、こういった文化財の保存工事は初めてです。「作業目

### 既存のものを出来るだけ生かし



川上さん（左）と工事に従事する仲間  
職人さんたちも大変だと思えます」と川上さん。

体は難しいものではないよ。ただオレは住宅屋で、お客さんのことをいつも考えているから、細かいところに目をつけて、それに設計が入らなくても1〜2カ月でやり直せる朽けがすすんで、100年の

「こういった建物自体、県内でも少ないと思いますが、明治時代の建物をこのように幼稚園として活用しているのもあまりないと思います。民間でなく小学校や幼稚園として使ってきたからこそ、今があるのかもしれない。だから次の世代に引き継いでいくことは大事だと思います」と話してくれました。

**日本赤十字社埼玉支部旧社屋**

嵐山町  
埼玉県比企郡嵐山町大字鎌形 2230-2



小須田さん

事は、職人らしくておもしろいよ」と仕事への思いを語ってくれました。

06 今回の文化財保存工事は、日本赤十字社埼玉支部旧社屋